

## 第20回関東地区ホルスタイン共進会が開催されました

第20回関東地区ホルスタイン共進会が千葉県家畜市場において開催されました。本大会は第1回大会が昭和50年に開催されて以降2年に1回のペースで開催されている歴史ある乳牛の品評会です。近年、新型コロナウイルス等の影響により開催が見送られていましたが、今年は平成30年以来の久々の開催となりました。

関東各都県の共進会で上位に選出された乳牛が月齢に応じて1部から10部に分かれて厳正に審査され、最終的に全ての部類の中からグランドチャンピオンが決定されました。今回、審査員は北海道岩見沢市の酪農家である瀬能剛氏が務められました。瀬能氏は、北海道で乳牛135頭を飼養する傍らで、道内だけでなく全国各地の共進会で審査員を務められ、広く活躍されています。

本大会には、関東1都6県から未經産牛30頭、経産牛48頭の合計78頭が出品され、神奈川県からは、未經産牛5頭、経産牛9頭の合計14頭が出品されました。当日は天候に恵まれ、体型と資質に優れた乳牛たちが青空の下、堂々と審査を受ける姿は素晴らしいものでした。

今大会では、本県より出品された伊勢原市の高橋純徳氏の未經産牛「クレアマウント カタブラ ドラスト」が第2部において、優等賞2席となり入賞しました。本牛は、伊勢原市の共進会においてジュニアチャンピオンに選出され、県共進会においても第3部で優秀賞1席となっています。月齢が進むにつれて状態が変わっていく未經産牛を常に月齢に応じた良好な状態に維持し、今回の受賞に繋がったことは、高い育成管理技術を持つことの証であるといえます。

審査の結果、グランドチャンピオンには群馬県の北軽井沢ヤングマンシンジケートより出品された「RH ヤングマン モントレー」が選出されました。

厳しい酪農情勢が続く中、共進会への出品を目標のひとつとし切磋琢磨している若手酪農家の姿は、県内の酪農家を元気づけるものでした。

畜産技術センターは、今回出品された乳牛の体型や資質の評価をふまえ、今後とも県内の農場の乳牛改良に向けた技術支援に努めていきます。



伊勢原市高橋純徳氏の出品牛第2部優等賞2席



グランドチャンピオン受賞牛